

高校生 ICT Conference 2019

in サミット

人はなぜ SNS を使うのか？ ～改めて考える SNS の使い方～

開催報告書

2019年11月3日

【会場】東京ユキピタス協創広場 CANVAS（内田洋行）

主催

高校生 ICTカンファレンス実行委員会

（構成団体）

安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2019年12月24日

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2019 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2019 in サミット 開催概要.....	6
4. 主担当.....	9

1. 開催概要

名称：	<p>高校生 ICT Conference 2019</p> <p>テーマ： 人はなぜSNSを使うのか？ ～改めて考えるSNSの使い方～</p>
主催：	<p><高校生 ICT カンファレンス実行委員会></p> <p>(構成団体)：安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報化研究会： 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会</p> <p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県教育委員会 (長野のみ) ・福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会 (福岡のみ) ・大分県 (大分のみ) ・公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 (大分のみ) ・特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム (神奈川のみ) ・仙台城南高等学校 (宮城のみ) ・特定非営利活動法人 鹿児島インフार्メーション (鹿児島のみ) (順不同)
共催：	<p>内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省</p> <p>十勝毎日新聞社 (帯広のみ)、みやぎの ICT 教育研究専門部会 (宮城のみ)、新潟県サイバー脅威対策協議会 (新潟のみ)、学校法人中村学園専門学校静岡電子情報カレッジ (静岡のみ)、一般社団法人・情報教育研究所 (愛知のみ)、帝塚山大学 (奈良のみ)、特定非営利活動法人なら情報セキュリティ総合研究所 (奈良のみ)、奈良県情報教育研究会 (奈良のみ)、大分県教育委員会 (大分のみ)、大分県高等学校 PTA 連合会 (大分のみ) (順不同)</p>
後援：	<p>一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道私立中学高等学校協会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県高等学校 PTA 連合会、東北工業大学、山形県、山形県警察本部、山形県教育委員会、山形県高等学校教育研究会生徒指導部会、茨城県、茨城県メディア教育指導員連絡会、茨城県教育委員会、茨城県警察本部、神奈川県、神奈川県教育委員会、新潟県教育委員会、新潟県高等学校長協会、新潟県高等学校 PTA 連合会、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校 PTA 連合会、静岡県、静岡県教育委員会、静岡県公立高等学校 PTA 連合会、愛知県教育委員会、大阪府高等学校情報教育研究会、一般社団法人せんだんの会、情報教育学研究会、兵庫県私学教育情報化研究会、奈良県、奈良県教育委員会、青少年を有害環境から守る奈良コンソーシアム、山口県私立中学高等学校協会、山口県臨床心理士会、高知県教育委員会、高知新聞、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡県公立高等学校 PTA 連合会、大分合同新聞社、西日本新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、鹿児島県教育委員会、鹿児島県警察本部、鹿児島大学学術情報基盤センター (順不同)</p>

協賛：	<p>グーグル合同会社、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ラック、グリー株式会社、アルプスシステムインテグレーション株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社メディア開発綜研、エースチャイルド株式会社、Twitter Japan 株式会社、株式会社インテグラル、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、ジョイズ株式会社、一般社団法人情報教育研究所 (順不同)</p>
協力：	<p>株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイトジャパン株式会社、LINE 株式会社 (順不同)</p>
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加し、2013 年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて 5 拠点にて開催し、計 51 校 267 人の高校生が参加しました。2014 度も同 5 拠点にて開催し、計 44 校 221 人の高校生が参加しました。</p> <p>2015 年度は、石川、長野、神奈川、福岡を加えた 9 拠点にて開催し、計 78 校 310 人の高校生が参加しました。2017 年度は、より全国的な規模での展開に向けて、新たに北海道帯広、仙台、静岡、新潟、高知を加えた 14 拠点にて開催し、計 107 校 476 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>2011 年に高校生 ICT カンファレンスがスタートして 9 年目、第 1 回のテーマは「ネットとケータイの問題点」でした。9 年の時を経て、高校生のネット接続ツールは、ケータイからスマホへ変わり、Facebook、LINE、twitter や Instagram と次々と新しいツールが登場しながらも、本質が SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) でのコミュニケーションであることに変わりはありません。</p> <p>SNS を使った犯罪やネットいじめは引き続き続いており、不適切動画の投稿による炎上は、対象企業の事業継続を左右する社会問題となっています。</p> <p>このように、様々な問題を抱えつつも、SNS はどうして高校生をはじめ、多くのインターネット利用者を惹きつけるのでしょうか？</p> <p>SNS の魅力やその功罪について熱い議論を通じて、改めて SNS との付き合い方や使い方について考え、提言をまとめます。</p>

	<p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】 ※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名（各開催地により変動あり） 募集見学者各回 30 名（各開催地により変動あり）</p>
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference2019 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長） 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） 小城 英子（聖心女子大学） 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】 安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180</p>

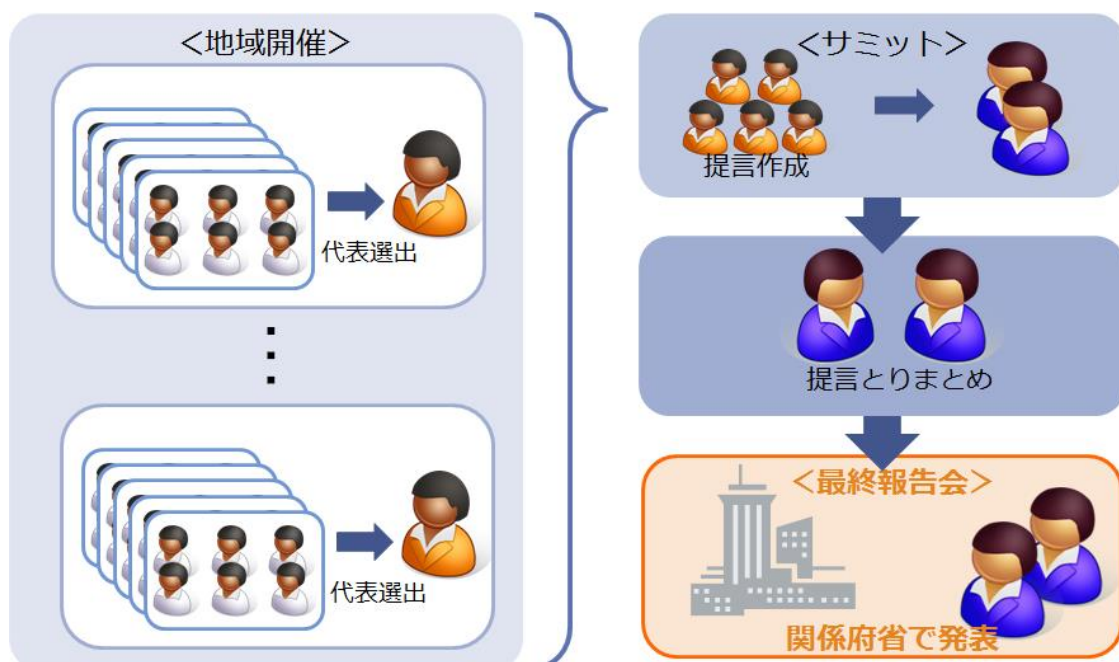
2. 高校生 ICT Conference 2019 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜しました。

開催地	開催日時	会場
札幌	2019年9月28日	内田洋行札幌ユビキタス協創広場 U-cala
帯広	2019年9月23日	十勝プラザ
宮城	2019年9月28日	東北工業大学一番町ロビー
山形	2019年10月5日	米沢伝国の杜
茨城	2019年8月23日	茨城県教育研修センター
神奈川	2019年8月24日	岩崎学園
新潟	2019年8月20日	新潟コンピュータ専門学校
石川	2019年8月25日	金沢市リファーレ会議室
長野	2019年9月28日	安曇野市明科公民館
静岡	2019年9月29日	専門学校 静岡電子情報カレッジ 森下町キャンパス
愛知	2019年10月19日	名古屋女子大学
大阪	2019年9月1日	内田洋行大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
奈良	2019年9月29日	帝塚山大学 奈良・学園前キャンパス
高知	2019年9月7日	オーテピア
福岡	2019年9月21日	LINE Fukuoka
佐賀	2019年10月13日	佐賀大学
長崎	2019年8月8日	諫早文化会館中ホール
大分	2019年8月25日	ホルトホール大分
鹿児島	2019年8月17日	鹿児島大学
サミット	2019年11月3日(祝)	東京ユビキタス協創広場 CANVAS (内田洋行)

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待。

※福井（サミット熟議のみ参加）



3. 高校生 ICT Conference 2019 in サミット 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 102 名の参加者を得て、人はなぜ SNS を使うのか？～改めて考える SNS の使い方～をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【開会の挨拶】 高校生 ICT Conference 実行委員会 委員長 米田 謙三 先生 本日の全体進行役として、高校生 ICT Conference の主旨説明と本日の大まかな流れについてご説明いただきました。</p> <p>【ご来賓挨拶】 総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部 消費者行政第一課長 梅村 研 様 総務省は情報通信行政を担当し、携帯電話サービスにおける競争の促進や利用者への保護、5G の推進など様々な内容を扱っている。その一環として、青少年がインターネットを利用するうえでの環境整備も担当している。青少年のスマートフォンなどによるインターネット利用の増加に伴い、被害・トラブルも増えていることから、総務省ではその対策として、インターネットの安心・安全な活用に係る学校への出前講座やインターネットトラブル事例集の作成・公表等の普及啓発、青少年フィルタリングの利用促進などに取り組んでいる。本日の皆様の議論が実りあるものになることを期待している。</p> <p>消費者庁 消費者政策課長 内藤 茂雄 様 消費者庁は、国の消費者行政の基本計画を担当しており、様々なトラブルの相談も行っている。高校生でも先輩や友達から高価な商品を勧められて買ってしまふなどの事例が多く発生しており、このような様々な問題について皆さんがどのように考えているのか、なかなか伝わってこず、直接意見が聞けることは貴重な機会を楽しみにしている。今日は全国から集まった仲間とたくさん話をして良い思い出を作って欲しい。</p> <p>警察庁 生活安全局少年課 性的搾取対策官 天野 賀仁 様 警察庁の少年課は、少年に関係するポルノやネット問題などを担当しています。私はファミコン世代ですが、今では様々ものが出てきており、ネットの世界はこれからもどんどん変わっていく。本日は、皆さんの議論をとおり、柔らかい発想を聞き、いろんな問題の解決を考えていきたい。この時代でしか出来ない議論を楽しんで欲しい。</p> <p>文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 専門官 打田 剛 様 サミットの議論は、昨年も文部科学省の幹部にとっても好評だった。今回のテーマについては時期を得たテーマだと思っている。ネットを利用した犯罪やトラブルなどが多く起こっている一方で、悩み相談や災害情報を発信することが出来るなど、</p>
----	--

役に立つことも多くある。今日の熟議を皆さんの糧にして欲しいと思っている。
今日議論を高め、また最終報告会での報告を楽しみにしている。

内閣府 政策統括官付 青少年環境整備担当 参事官付専門職 岡部 勇介 様

内閣府は、青少年のインターネットの環境整備に関して各省庁と連携して課題に日々取り組んでいる。ICTの環境は変化が激しく、新たな課題も多い。今日のテーマである SNS について、皆さんの考えを聞くことは非常に貴重な機会だと思っている。普段から感じていること、考えていることをそのまま発表していただき、それを今後の参考にしていきたい。

経済産業省 商務情報政策局 情報経済課 統括係長 鶴澤 和志 様

今回のテーマの「SNS」とは、決して若者だけに関係する問題ではない。大人にとっての、従来の典型的な Social Networking の方法は「名刺」だが、近年、AIを用いてスマホ上で名刺の情報を読み込み、他人の人脈を調べたり、メッセージの交換ができるサービスが提供されはじめている。今後は、わざわざ紙で名刺交換するのではなく、最初からスマホ同士で情報交換が進み、SNSを誰もが使う社会も到達するのではと思っている。若いときからデジタルサービスに向き合っている皆さんの議論は、将来の日本社会全体の役に立つような議論にもつながると期待している。

【各開催地域代表生徒の自己紹介、地域の取組の紹介（各3分）】 様

アイスブレイクとして各地域代表生徒が、今年度のテーマでの地域の熟議内容の報告を招待参加校は各地域での独自の取組の紹介を行いました。限られた時間のの中で、代表の生徒は各地域でのそれぞれの取り組みの内容を上手に発表していました。

北海道石狩翔陽高等学校

北海道帯広柏葉高等学校

仙台城南高等学校

山形県立山形西高等学校

茨城県立石岡第二高等学校

神奈川県立平塚中等教育学校

新潟県立巻高等学校

小松大谷高等学校

長野県松本県ヶ丘高等学校

日本大学三島高等学校

愛知県立東浦高等学校

羽衣学園高等学校

奈良県立香芝高等学校

高知県立伊野商業高等学校

福岡県立博多青松高等学校

佐賀清和高等学校

長崎県立諫早農業高等学校
東九州龍谷高等学校
鹿児島純心女子高等学校
福井県立武生商業高等学校（招待参加）

【グループ熟議・発表資料作成・リハーサル】

進行役の米田先生からファシリテーターの紹介があり、熟議内容の発表までのスケジュール説明がありました。今回のグループ熟議は3つのグループに分かれて進められました。それぞれのグループで熟議の進め方やペースは違っていました。付箋を利用して模造紙に貼り付け、項目に分類しながら、役割分担も考えて各グループでそれぞれ工夫しながらまとめていきました。それぞれのグループで熱く議論が交わされました。

「グループ熟議」の詳細については別紙「高校生 ICT Conference2019 サミット熟議録」をご覧ください。

【グループ発表】

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して5分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

グループ1

SNSにおけるデメリット発生の原因を「悪循環」と分析し、これを能動的に解決する方法として、高校生自身がディスカッションをして共有し、それを学校の内外に広めていくことを提言しました。

グループ2

SNS使用の背景には、承認欲求、娯楽、情報収集など現実の補完があり、間違った補い方がトラブルを誘引すると分析し、現実を知る高校生が世代を通じた架け橋になってトラブルを防ぐことが必要だと提言しました。

グループ3

知識を持つにはまず土台が必要であると整理し、そのためには高校生自身が興味を持てる体験を映画等の手法でまとめ、まず高校生自身が見て、それを大人にも見てもらい、補助してもらい広げていくという提言をまとめました。

その後、参加生徒自身が、12月5日に開催される最終報告会代表校の選定投票を行い、大阪代表羽衣学園高等学校・佐賀代表佐賀清和高等学校が代表校に選出され、発表されました。

日時：	2019年11月3日（祝） 13:00-17:00
場所：	株式会社内田洋行 東京ユビキタス協創広場 CANVAS

	(東京都中央区新川 2-4-7)
参加人数 :	熟議参加生徒 20 人 見学者・関係者 82 人 (教員・教育関係者・その他) 合計 102 人
熟議グループ :	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【グループ名 : ①】 6 名 仙台城南高等学校 2 年男子 神奈川県立平塚中等教育学校 1 年女子 長野県松本県ヶ丘高等学校 2 年男子 羽衣学園高等学校 2 年女子 福岡県立博多青松高等学校 2 年女子 佐賀清和高等学校 3 年男子 【グループ名 : ②】 7 名 北海道帯広柏葉高等学校 2 年男子 茨城県立石岡第二高等学校 2 年男子 新潟県立巻高等学校 2 年男子 愛知県立東浦高等学校 2 年女子 高知県立伊野商業高等学校 2 年女子 東九州龍谷高等学校 2 年女子 福井県立武生商業高等学校 3 年女子 【グループ名 : ③】 7 名 北海道石狩翔陽高校 2 年男子 山形県立山形西高等学校 2 年女子 小松大谷高等学校 2 年女子 日本大学三島高等学校 1 年女子 奈良県立香芝高等学校 2 年男子 長崎県立諫早農業高等学校 3 年女子 鹿児島純心女子高等学校 2 年女子

4. 主担当

高校生 ICT Conference2019 実行委員会	司会進行
安心ネットづくり促進協議会	事務局、庶務、撮影 等
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	庶務、受付 等
各団体、事業者等	挨拶、講演、ファシリテーター、記録 他